Rethink フォーラム



この街から、Rethink（リシンク）して未来を変えていく。

街の課題を、考える。話し合う。

そこに住む方々、そこで働く方々、そしてそれを支える自治体の方々と一緒に。

それは、よりよい明日のために。

Rethinkフォーラムは、地域にゆかりのある方や、テーマにピッタリなゲストをお招きして、

地域社会の課題解決に向けたディスカッションをする場。

ちょっとだけ視点を変えてみることで、違った景色が見えてくるかもしれません。

この先も、この街が魅力的で活気にあふれるように。一緒に、Rethinkしませんか？

Rethink（リシンク）

視点を変えて考えること。





Rethink PROJECT

テーマ　Rethink 川口　～環境と文化が響き合う創造都市へ～



Rethink川口～環境と文化が響き合う創造都市へ～（埼玉新聞社主催、Rethink PROJECT協賛）が8月、川口市で開催されました。川口市のクリーンで快適な環境づくりは、芸術活動の広がりを支える基盤となり、市民が主体的にかかわる文化の形成を後押ししています。岡村ゆり子市長は「環境整備は文化創造の入口」と語り、環境整備そのものを創造性とつなごうとしています。それは、市民が交流する場をつくり、人のつながりから文化を醸成する循環を生み出す試みです。「環境×表現×市民参加」。この結び直しから何が生まれているのでしょうか。創造都市を目指して、未来を変える川口を、Rethinkしました。

語り手



岡村ゆり子さん（川口市長）

1981年生まれ。川口市出身。明治大学専門職大学院ガバナンス研究科終了。テレビ局勤務を経て、2015年に川口市議会議員。県議会議員を務め、26年から現職



森　麻季さん（アナウンサー）

1981年生まれ。川口市出身。2003年日本テレビ入社。料理やニュース番組を担当。11年フリーアナウンサーに転身。食育・食生活に関する資格を多数取得。現在は2児の母親



楊井　聡さん（日本たばこ産業株式会社 埼玉支社長）

1977年生まれ。大阪府出身。近畿大学卒業。2000年日本たばこ産業入社。たばこ事業本部営業部次長、鹿児島支社長、福岡支社長などを経て、26年から現職

モデレーター



関根正昌（埼玉新聞社会長）

1959年生まれ。蓮田市出身。法政大学卒業。85年埼玉新聞社入社。2007年取締役、専務取締役、代表取締役社長を経て、26年から現職

充実する文化施設が「つくりたい」を刺激

【関根】「文化がある」まちには潤いがあって、豊かです。まずは、川口市の芸術活動の拠点となる文化施設について教えてください。

【岡村】大規模改修を行った川口総合文化センター・リリアは7月に、新たに建設した市立美術館は9月にグランドオープンしました。美術館では、開館を記念して、川口に所縁の深い写真家、蜷川実花さんの特別展を開催中です。今後も魅力的な企画展を開催し、市民の皆さまが日常的に、そして気軽に文化芸術に触れて親しめる機会を創出していきたいと考えています。



川口市立美術館

ほかにも、市内にはアートギャラリー・アトリアや様々な文化芸術活動の場があって、身近に触れることができます。これまで以上に、市民の皆さまが文化芸術に親しむ場になってほしい。特に、私は子どもたちの「作ってみたい」を刺激したいと思っています。

【関根】文化の下地には、ものづくり産業の伝統や歴史があると感じます。

【岡村】川口は古くから「ものづくりのまち」として栄えてきました。鋳物が象徴的な産業の一つです。これまで長く受け継がれてきた職人の高い技術は、川口の文化であり、これからも守り続けていかなくてはなりません。

今、地域ではアーティストが活躍しています。子どもたちが芸術に触れる。市民が表現者として参加する。そこに世代や分野を超えた交流が生まれています。芸術文化は特別なものではなく、暮らしの一部といってもいいと思います。川口はこれから「文化を受け継ぎ、育むまち」へ進化していきます。正に、Ｒｅｔｈｉｎｋです。

【森】市長と同世代の私は、同じ景色を見て育ちました。実家を離れてみて、川口の良さにあらためて気づきました。今は子育て中。わが子へ私のふるさとの良さを伝えたいと思っています。

触れる、特に参加する体験を通して、子どもたちが文化や芸術を学べるのが素晴らしいと思います。しかも、気軽に足を運べる駅前にそうした施設がある。とても素敵です。

京浜東北線の車窓から見た「鋳物の川口」という看板を思い出します。その技術を文化として未来へつないでほしいと思います。

【楊井】文化には形がなく、目に見えません。ただ、ある美術作品について、制作された時代や社会背景など様々に視点を変えて鑑賞すると、作品の面白さが増し、理解が深まると思います。

市長から鋳物職人の技術についてのお話がありました。伝統や技術を守るという共通の目標に向かって、様々な分野の人々が一緒に取り組む。あきらめず継続して励んだ先に、文化が生まれると思います。「この街から、Ｒｅｔｈｉｎｋして未来を変えていく」川口市の姿だと感じました。

環境整備は文化の入口　豊かな自然の先へ

【関根】川口市の魅力の一つ、自然環境に対する施策について話を聞きます。

【岡村】環境政策は、市民の皆さまにとって生活の基盤であると考えています。豊かな自然は、人を引き寄せます。人々が集うと交流が生まれ、そこで文化が育まれて、まちへの愛着が高まると考えます。環境と文化を分けて考えるのではなく、こうした循環がこれからのまちづくりには必要です。私は、環境整備を文化政策の入口と位置づけています。

例えば、赤山歴史自然公園「イイナパーク川口」では、閉園後に園内を歩いて生き物を探す「夜のいきもの観察会」を開催しています。子どもたちに大人気のイベントです。

また、緑地の保全にも継続的に取り組んでいます。現在、特別緑地保全地区は4つ、面積は約3.1ヘクタール。公有地は直近5年で、約1.1ヘクタール増えました。

【楊井】環境は身近なものですから、環境活動は日常的な感覚を変える取り組みだと思います。日々の小さな感覚の積み重ねが、まちへの愛着につながると身をもって学びました。

ＪＴでは「ひろえば街が好きになる運動」を実施しており、地域の皆さんと一緒に清掃活動に取り組んでいます。「何をしているの？」。住民の方から声を掛けられたことがあります。「ありがとう」「一緒にやりたい」という声を聞いて、この活動が人と人のつながりを生んでいると思いました。



市長が指摘された「循環」の意味がよく分かります。正に、Ｒｅｔｈｉｎｋだと思います。

【岡村】県立川口工業高校には掃除部という部活があるほど、若い世代がボランティア活動に積極的です。ごみを一緒に拾うと、世代を超えて共に考えるきっかけになります。ぜひ、市とＪＴが協力して「ひろ街」を実現したいと思っています。

【森】お話を聞いて、多様な世代が一緒に汗を流す経験が、「気持ちいい」を当たり前にすると思いました。一方で、私たちには拾っただけで終わらせない努力が必要だとも感じます。

私にとってグリーンセンターは、特別に親しみのある場所。今も、子どもを連れて訪れます。子どもたちは、ホタルやカブトムシなどが生息する環境に驚き、喜び、興味を持ちます。大切なのはその先。自分に何ができるのかを一緒に考えようとあらためて思いました。

「未来を変えていくＲｅｔｈｉｎｋ」は、私たち市民にも求められていると思います。

つなぐ～未来を変える「当たり前」を次代へ

【関根】未来を変えていくには、どうしたらいいのか。皆さんにご意見を伺います。

【楊井】森さんのご意見の通り、一人一人がまちづくりの担い手という視点が大切だと思います。小さな努力かもしれませんが、それらはすべて未来をつくる行動だと思います。

仕事柄、各地に赴任します。大切にしているのは、その地域とのかかわりや人とのつながり。私は、その深さを心の宝箱にしまっています。きっと、皆さんの中にもあるでしょう。その大切なものに気づく、体感する場をつくり、積み重ねて、つなぐことが大切だと思います。

未来を変える、まちをつくるのは、誰でもない一人一人だと視点を変えてはどうでしょう。

【森】「当たり前」を見直して、次の世代へつないでいきたいと思います。古くから住み続けている人、新しく住み始めた人、最近は外国籍の人も増えていると聞きます。視点を変えれば、それも現在の川口市らしさ。新しい風が吹く可能性が高まっていると気づきます。

【岡村】「Ｒｅｔｈｉｎｋは、これまで分けて考えてきたものを結び直すこと」と感じました。環境と文化、市民と行政、つくる人と鑑賞する人、これらをつないでいきます。市民の皆さま一人一人が参加し、かかわり、発信することで、新しい価値を生み出していきたいと、思いを新たにしました。

市民全員が主役になれるまちを一緒に目指しましょう。

【関根】ありがとうございました。

Rethinkフォーラムホームページ　https://rethink-pjt.jp/forum/index.html

※Rethink PROJECTはJTがパートナーシップを基盤に取り組む地域社会への貢献活動の総称です

Rethinkフォーラム　検索